ようこそ校長室へ！
No. 33
令和５年10月10日
発行 ： 貝塚 敦

に にこにこ笑顔で い いつもみんなで つ 紡ぎ繋げる心で に 日本一をめざすのだ

ザ・「合唱」それは未来への応援歌！

今日から、いよいよ令和５年度後期がスタートし、学校はいよいよ後半戦に突入します。

新風祭と並ぶ２大学校行事の合唱祭を迎えます。音楽は私たちの生活に不可欠なものであることに異論はないと思いますが、音楽の魅力を感じる場面は、大きく分けて２つあると思います。

一つは、「音楽を一人で楽しむ」ことです。様々なデバイスを通して音楽を聴いたり、コンサートや演奏会を楽しんだり、カラオケで満喫したり、鼻歌を歌ったり。

自分が一番好きな歌や曲を一つだけなんて言われたら、誰もが頭を抱えてしまいますが、私の場合、どうしても一曲と言われれば、やっぱり、かぐや姫の『神田川』でしょうか(古いけど何故か知っている若者も多い曲なのでは)。

大学時代に過ごした東京のアパート近くに、この歌の舞台になった銭湯があり、たいへんお世話になりました。あれから３０年以上が経過し、都市開発の波に押されもちろんその銭湯は現存しません。当時、小さなセッケンをカタカタとならして肩を寄せ合って帰る素敵な相手などいるはずもなく、戻るアパートは４畳半どころか３畳しかなく・・・・・・。学生時代の思い出がセピア色になって甦る名曲です。

このように、「音楽を一人で楽しむ」はある意味、自分だけの世界、自己満足の領域と言えるでしょう。

もう一つの音楽の魅力は、「音楽をみんなで楽しむ」ことです。吹奏楽部や合唱等の音楽サークル、そして今回の合唱祭がまさにそうです。

つまり今回の合唱祭に向けた一連の過程は、言うまでもな

く、個人種目ではなく団体種目なのです。ですから、体育祭同様、いや個人的には体育祭よりも合唱祭の方が子どもたちや集団の成長に大きく寄与する重要な取組だと考えます。

新風祭の「全員リレー」、あれは『心をつないだ』ものです。これをあえて『縦の団結』としましょう。それに対して今回は『心をひとつに』することが要求されます。いわば『横の団結』なのです。体育祭の種目で例えれば、バトンをつなぐリレーではなく、横一列に全員で歩を進めるＮ人Ｎ＋１脚でしょうか。一人がこけたら皆こける。心がばらばらだと前進できない。クラスがまとまらなければ感動を生み出せないのです。だからこそ、合唱は、音楽の授業や合唱指導の枠を越え、生徒や学級・学年の成長の絶好機だということを先生方も重々承知しながら学級経営や生徒指導にあたっています。

本当にすばらしい音楽とは、時間と空間を超越するものです。昔の曲でも今の曲でも、すばらしいものはすばらしいし、外国の曲だって歌詞なんてわからなくてもだれもが感動できる曲はたくさんあります。音楽は、万人の共通言語であり人の心を強く揺り動かすことができる感情表現です。

そして、歌は世につれ、世は歌につれともよく言います。あの曲を聴くと、あの時代を思い出す。あの歌が流れると、あの出来事が蘇る。そんなことを経験したことはだれにでもあるでしょう。私自身も、いろんな合唱曲を聞く度に、「ああ、この曲は〇〇中の△年△組の時の合唱曲だったなあ」という思いが込み上がり胸が熱くなります。

皆さんの歌う合唱曲は、多分クラス全員で作り上げる唯一の、最初で最後のクラス作品です。卒業して数年後に再会する機会があったときに、お互いの脳裏に今回の合唱曲がＢＧＭとして流れ、それが単なる郷愁ではなく、未来への応援歌になる、そんな合唱祭であってほしいものと願うばかりです。